

【令和3年度事業報告書】

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

I. 法人の概要

学校法人 日本リハビリテーション学舎
理事長 宮武 剛
所在地 東京都小金井市中町二丁目 22 番 32 号
電話 042-384-1030
HPアドレス <https://www.sigg.ac.jp/>

II. 設置する学校

名称 専門学校 社会医学技術学院
学院長 山田 千鶴子
所在地 東京都小金井市中町二丁目 22 番 32 号
校地 総面積 3346.4 m²
校舎 延床面積 3510.34 m² (構造) RC一部鉄骨構造 地上3階地下1階
沿革 1973 東京都新宿区大久保スポーツ館内に理学療法士養成施設 (夜間4年課程) とし
て開設
‘75 東京都渋谷区に移転
‘77 運営母体の法人化 (「財団法人日本リハビリテーション振興会」設立)
‘80 東京都小金井市に校舎移転
専門学校として認可、作業療法学科 (夜間4年課程) 開設
‘83 理学療法学科 (昼間3年課程) 開設
‘99 校舎増築 (新図書室、パソコン教室)
2003 創立30周年
‘07 夜間部理学療法学科・作業療法学科定員を各35名に増員
‘11 昼間部理学療法学科定員70名に増員
‘13 創立40周年
設置母体の称号変更 (「財団法人日本リハビリテーション振興会」から「一般
財団法人日本リハビリテーション振興会」に、公益法人制度改革に伴う変更)
‘17 社会医学技術学院奨学金創設 (学院・同窓会との共同事業)
‘18 キャリア支援室を設置
‘19 設置母体の法人組織変更 (「一般財団法人日本リハビリテーション振興会」
が、新設された法人「学校法人日本リハビリテーション学舎」に学校教育に関
するすべての事業と全財産を譲渡)

Ⅲ. 役員・評議員・教職員の概要

1. 理事会（令和3年4月1日現在）

理事長	宮武 剛	(賠償責任保険加入：総支払限度額5億円)
副理事長	山田 千鶴子	(同)
専務理事	帯刀 隆之	(同)
理事	長田 一雄	(責任限定契約締結)
理事	小林 達雄	(同 締結)
理事	新田 國夫	(同 締結)
理事	矢谷 令子	(同 締結)
監事	大久保 孝彦	(同 締結)
監事	立道 肇	(同 締結)

2. 評議員会（令和3年4月1日現在）

評議員	山田 千鶴子
評議員	帯刀 隆之
評議員	長田 一雄
評議員	倉持 昇
評議員	武市 裕貴
評議員	伊東 弘泰
評議員	薄井 康紀
評議員	奥野 英子
評議員	小野 淳彦
評議員	小林 達雄
評議員	清宮 眞知子
評議員	西村 和美
評議員	播 彰
評議員	溝呂木 忠
評議員	渡邊 芳樹

3. 理事会会議記録

(1) 第7回理事会 令和3年5月28日

議案審議事項

- 第1号 令和2年度事業報告及び決算報告について
 - 第2号 監事監査報告について
 - 第3号 臨床実習施設の変更について
 - 第4号 評議員辞任届の受理について
 - 第5号 理事辞任届の受理について
 - 第6号 評議員の推薦について
- 以上1号から6号まで承認された。

(2) 第8回理事会 令和3年5月28日

議案審議事項

第1号 評議員の選任について

第2号 理事の選任について

第3号 専務理事の選定について

以上1号から3号まで承認された。

(3) 第9回理事会 令和4年3月30日

議案審議事項

第1号 令和3年度補正予算案について

第2号 令和4年度事業計画案について

第3号 令和4年度収支予算案について

第4号 教員の変更について

第5号 臨床実習指導者の変更について

第6号 学院長の辞任について

第7号 後任学院長及び理事の選任について

第8号 理事の辞任に伴う後任者の選任について

第9号 評議員の退任に伴う後任者の推薦について

第10号 副理事長の選定について

第11号 役員賠償責任保険の継続加入について

以上1号から11号まで承認された。

4. 評議員会会議録

(1) 第6回評議員会 令和3年5月28日

議案審議事項

第1号 令和2年度事業報告及び決算報告について

第2号 監事監査報告について

第3号 臨床実習施設の変更について

第4号 評議員辞任届の受理について

第5号 理事辞任届の受理について

以上1号から5号まで承認された。

(2) 第7回評議員会 令和3年5月28日

議案審議事項

第1号 評議員の選任について

第2号 理事の選任について

以上1号から2号まで承認された。

(3) 第8回評議員会 令和4年3月30日

議案審議事項

- 第1号 令和3年度補正予算案について
 - 第2号 令和4年度事業計画案について
 - 第3号 令和4年度収支予算案について
 - 第4号 教員の変更について
 - 第5号 臨床実習指導者の変更について
 - 第6号 学院長の辞任について
 - 第7号 後任学院長及び理事の選任について
 - 第8号 理事の辞任に伴う後任者の選任について
- 以上1号から8号まで承認された。

(4) 第9回評議員会 令和4年3月30日

- 第1号 評議員の退任に伴う後任者の選任について
- 以上1号が承認された。

5. 教職員の概要 (令和3年4月1日現在)

学院長	1名 (常勤)
副学院長	2名 (常勤・専任教員兼務)
キャリア支援室長	1名 (常勤・専任教員兼務)
専任教員	20名 (常勤・副学院長、キャリア支援室長を除く)
兼任教員	31名 (主な非常勤講師)
事務職員	9名 (常勤)
事務職員	2名 (非常勤)

IV. 専門学校社会医学技術学院 事業報告

1) 重点課題の実施状況等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、感染防止態勢のなかでも学生の不利益とならないような授業・実習の実施、及び経済的・精神的な困難に直面する学生への支援に重点を置きましたため、年度開始前に策定した重点課題等の少なからぬ項目の実施に支障が生じ、やむを得ず先送りすることとなりました。

【学院】

- ・新型コロナウイルス感染拡大の中でのオンライン授業、感染防止対策下での対面授業を行いました。(別紙報告書参照)
- ・感染防止のため、業務の支障とならない範囲で積極的に教職員の在宅勤務を行いました。
- ・学生募集のため、感染対策を徹底しつつ、説明会などのイベントを実施いたしました。(別紙報告書参照)

- ・学生の心身面の問題に対して担任、学科、心理カウンセラー、必要に応じて関係機関との連携をとり継続して対応しております。

【理学療法学科・作業療法学科】

- ・カリキュラム改訂に向けて教育内容を刷新し、より質の高い、また学院の特徴を出した教育活動の展開を開始いたしました。
- ・新型コロナウイルス感染症が蔓延するなか、臨床実習の形態を診療参加型にシフトし、新カリキュラムに対応した実習形態や評価表を再構築したほか、実習指導者養成のための臨床実習指導者講習会をオンラインで開催し、実習施設との連携を図る努力をいたしました。
- ・感染防止の制約のなか、国家試験合格率の向上に向け、可能な限りの対策を講じました。
(別紙報告書参照)

【事務局】

- ・外壁塗装・屋上防水、階段室の塗装等の大規模修繕工事を行い、5月に完了いたしました。
- ・新型コロナウイルス感染防止のため、学院内の定期的な消毒やワクチン職域接種を希望学生に実施したほか、感染疑い等の学生・教職員向けに PCR 検査キット、抗原検査キットを購入しました。
- ・昨年に引き続き高等教育の修学支援新制度の対象校に認定され、28名の学生が利用いたしました。
- ・国の学生支援緊急給付金制度により、コロナ禍で経済的に困窮する学生を推薦し、12名の学生が10万円の給付金を受給しました。

【今後の課題】

- ・ホームページ (HP) の効果的活用や高校・大学訪問などを強化し、学生募集の継続的強化を行います。
- ・昼間の就労体験を授業に反映させるなど、夜間部の特色を活かした教育内容を引き続き検討いたします。(両学科夜間部)
- ・作業療法学科卒業生に対する求人の増加傾向とは裏腹に応募者は遞減傾向にあり、作業療法の魅力や職業としての将来性をアピールする多様な方策を実施します(作業療法学科)とともに、同学科昼間部の創設を軸に学科の再編成案の作成・検討を急ぎます。
- ・同窓会と共同での卒後教育に取り組みます。
- ・2023年の創立50周年に向けて、同窓会等と協同し記念事業の検討を開始いたします。
- ・スタッフ・デベロップメント (SD) の一環として、事務職員の計画的な研修を企画いたします

2) 学生の状況

①在籍学生数（令和3年5月1日現在:休学者を含む）（かっこ内は前年度当初との増減）

	1年	2年	3年	4年	合計
(夜)理学療法学科	39(-3)	39(-3)	41(+17)	20(-7)	139(+10)
(夜)作業療法学科	25(-10)	35(+2)	22(0)	22(0)	104(-8)
(昼)理学療法学科	73(+1)	73(+8)	59(-11)	—	205(-2)
合計	137(-6)	147(+7)	122(+6)	42(-7)	448(0)

②退学者数 令和3年5月2日～令和4年3月31日（かっこ内は前年度）

	1年	2年	3年	4年	合計
(夜)理学療法学科	2(3)	2(1)	2(0)	0(0)	6(4)
(夜)作業療法学科	4(3)	3(6)	1(0)	0(1)	8(10)
(昼)理学療法学科	3(3)	1(0)	2(1)	—	6(4)
合計	9(9)	6(7)	5(1)	0(1)	20(18)

※主な退学の理由 進路変更12名、体調不良2名、その他6名（人間関係、経済的事情など）

③休学者数（かっこ内は前後期とも休学者の者）

	1年	2年	3年	4年	合計
(夜)理学療法学科	0(0)	1(0)	3(1)	2(1)	6(2)
(夜)作業療法学科	0(0)	2(1)	1(0)	0(0)	3(1)
(昼)理学療法学科	2(1)	1(0)	8(0)	—	11(1)
合計	2(1)	4(1)	12(1)	2(1)	20(4)

※主な休学の理由 留年したが当該学期履修済みのため4名、体調不良7名、経済的理由9名

3) 行事等

(1) 入学式 令和3年4月4日（日）

（新型コロナウイルス感染防止のため、規模を縮小して実施）

（入学者）理学療法学科 夜間部（第49期） 38名入学

作業療法学科 〃（第42期） 23名入学

理学療法学科 昼間部（第39期） 73名入学

(2) 三科合同行事 令和3年5月22日（土）オンラインにて実施

(3) 学生健康診断 令和3年6月2日（水）

(4) 体育祭（新型コロナウイルス感染防止のため中止）

(5) 文化祭 令和3年12月4日（土）オンライン、5日（日）校内で規模を縮小して実施

(6) 同窓会と共催の卒業教育研修会

令和3年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、前年度同様実施せず。

(7) 学校説明会等（令和3年4月～令和4年3月）

学校説明会（15回 264名 2月中止）

保護者向け学校説明会（9回 70名）

A0 受験支援セミナー (9回 134名)
 夜間部合同授業見学 (4回 32名 1月中止)
 合同体験授業 (2回 23名)
 理学療法学科 昼間部授業見学 (4回 32名)
 理学療法学科 夜間部体験授業 (3回 11名)
 作業療法学科 お仕事ミニ講座 (8回 26名)
 作業療法学科 種明かし (7回 22名 5月中止)
 作業療法学科 転職のススメ (4回 11名)

(8) 令和3年度学生募集 (各学科定員) 令和3年6月～令和4年3月
 入学試験 (AO・社会人・高校推薦・指定校推薦・一般・特別)

理学療法学科	夜間部	応募者合計	38名	入学決定者	36名
作業療法学科	〃	〃	28名	〃	22名
理学療法学科	昼間部	〃	104名	〃	72名

(9) 理学療法士・作業療法士 国家試験 令和4年2月20日

理学療法学科	夜間部	18名受験	15名合格	(合格率	83.3%)
作業療法学科	〃	21名	19名	(〃 90.5%)
理学療法学科	昼間部	54名受験	47名合格	(合格率	87.0%)

全国平均合格率：理学療法士 79.6%、作業療法士 80.5%
 (うち新卒者 理学療法士 88.1%、作業療法士 88.7%)

(10) 卒業式 令和3年3月12日(土)

(新型コロナウイルス感染防止のため、規模を縮小して実施)

理学療法学科	夜間部	卒業生(第46期)	18名
作業療法学科	〃	卒業生(第39期)	22名
理学療法学科	昼間部	卒業生(第37期)	54名
合計			94名

4) 累計卒業生数 (令和4年3月31日現在)

理学療法学科	夜間部	1,370名
作業療法学科	〃	1,032名
理学療法学科	昼間部	1,421名
合計		3,823名

V. 小金井市委託事業 事業報告

介護予防の普及啓発に寄与することを目的に、小金井市より地域リハビリテーション活動支援事業を受託し、市内の高齢者向け介護予防体操会場へのリハビリテーション専門職の派遣などを、小金井リハビリテーション連絡会と連携して行っております。今年度は、新型コロナウイルスの影響により感染対策を行いながら、各体操会場の巡回を可能な限り行いましたが、例年のようなイベントなどは実施に至っておりません。

VI. 財務の状況について

1) 資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入・支出の内容を明らかにし、且つ支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするものです。令和3年度の資金収支計算書の概要は次のとおりです。

①収入の部 学生生徒等納付金収入は、令和2年度(51,657万円)に比較し、約456万円の増額となりました。これは前後期通しての休学者の減少(2年度12名→3年度4名)によるものと考えております。授業料前受金収入、実験実習料前受金収入、施設設備資金前受金収入の予算時との相違は、3月31日期限までに学費を納入しない、または分割払いにしている学生がいるため生じています。

②支出の部

教員人件費支出について予算額と1,328万円の差異が生じていますが、補正予算額の誤りによるものです。奨学費支出は高等教育修学支援制度の奨学金で、見込みより採用人数が増えました。広報費支出の差異はコロナによるイベント内容の変更、ホームページ制作業者の見直し等によるものです。また将来の校舎建て替えに備え、施設拡充引当特定資産繰入支出として、本年度も5,000万円を計上しております。

2) 事業活動収支計算書は、当該年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であることを示すものであり、いわば企業会計の損益計算書にあたるものです。

①事業活動収入の部

その他の雑収入には、退職引当金取崩収入が含まれています。令和2年度に退職した教職員にかかるもので、決算時の処理が異なっていたことから今年度の決算に入れております。

②事業活動支出の部

減価償却額と予算額の差異につきましては、これまで混在していた償却方法を会計士による指導のもと統一し、取得価額を耐用年数で除する定額法で再計算したことにより生じたものです。

単年度の学校法人の収支状況を見るうえで最も基本的な指標である事業活動収支差額比率は約11%で、適正な数値となっています。

3) 貸借対照表は、年度末における資産・負債・純資産(基本金及び繰越収支差額)を把握するもので、学校法人の財政状態を表示するものです。

①資産の部

前年度は外装塗装等改修工事費の前払い分1,617万円を建設仮勘定に計上していましたが、工事が完了したため本年度は建物勘定に振り替えています。資産の部の合計は前年度費1,283万円増加し、23億7,961万円となりました。

②負債の部

負債の部の合計は前年度比4,804万円減少し、4億4,722万円となりました。複数科目の増減によるものですが、未払金が前年度比4,493万円減少したことが主要因です。

以上の結果、総資産から総負債を差し引いた令和3年度末の純資産の部合計は、前年度末より60,880,577円増加して1,932,393,260円となりました。

以上

令和4年5月1日

学校法人 日本リハビリテーション学園

令和3年度「コロナ禍における学院感染対策」報告書

令和4年5月12日

副学院長 帯刀隆之

I. 新型コロナウイルス感染症対策として出口対策特命班を昨年に続き設置し活動

1. 2021年度委員会分掌規程にて以下を任務とした
 - 1) 学内感染症対策に関すること
 - 2) 感染拡大中の学内対応に関すること
 - 3) その他
2. 出口対策特命班の班員構成
副学院長2名、理学・作業療法学科長2名、事務長、庶務課長、教務係長
3. 検討会議：令和3年4月12日～令和4年3月28日まで全35回開催

II. 主な感染症対策

1. 全般事項：
 - 1) 感染状況に応じて以下を随時検討、決定した。
授業形式の方法（対面または遠隔形式）／実技・演習授業の開講管理／学院開閉門（登下校）時間／学内での飲食要領や可否
 - 2) 「対面・遠隔授業のハイブリッド形式」を中心とした主な議事経過
4月：慎重な感染対策を継続しながら通常対面授業計画にて新学期開始
5月：専任教員による科目は遠隔授業へ切り替え
6月：全体として〔対面4：遠隔6〕の割合とする
7月：全体〔対面6：遠隔4〕の割合に変更／既卒生国試対策用学習室の開放
8月：夏休み中の国試対策学習室開放のマネジメント
10月：後期から対面授業の解禁／図書室利用の制限解除（外部を除く）
11月：学生学内食事の一部解除から全面解除へ
R4/1月：学内食事の中止／国試対策学習室利用学生数の制限
2月：最終学年国試対策の学習室利用学生数のさらなる制限
2月国試当日：2週間前は外出自粛を勧告
2. 教務：
 - 1) 全般事項での決定事項について学生への一斉通知作業
 - 2) 特に遠隔授業のサポート・外来講師対応（同時双方向授業の配信のセッティング等）
3. 事務：
 - 1) 感染対策関連の備品管理
消毒液／サーキュレーター／サーモグラフィー／アクリルボード 等
 - 2) クラスへの換気呼びかけ定時アナウンス

Ⅲ. 年度内における学内感染事例の状況

学内でのクラスター発生は0件。学生就労先等での陽性者近接による本人罹患例または家庭内感染例の散発は見られたものの学内での2次感染は抑えられ経過した。

今年に入って1月10日成人式を中心に数名の陽性例が報告され、この点からさらに学内での2次感染例の広がりを経験した。1月～2月は、主に昼間部において最大十数名の陽性例があった。学期末のことで授業への影響は最小限に留まったものの、オミクロン株流行の影響も加わり昼間部2年臨床実習（3週間）には3月一杯影響を受けた。

以上を除けば、濃厚接触者疑いの判断に追われる日々もあったものの年間を通じれば学内での感染事例を最小減に留めることができた。学内感染対策は万全であると考えている。

Ⅳ. 学院の感染症対策のまとめ

昨年から引き続き、授業は感染症対策を講じた対面授業と、時に応じた遠隔授業の対応をとり実施した。臨床実習は実習地から急な中止要請などもある中、学内代替実習の併用も駆使して無事に単位取得に導くことができた。国家試験の受験に際しては当日まで危ぶまれる事例が生じたものの、結果的には全員が受験することができた。

一方、遠隔授業や実技授業の制約により学生には技能面で十分な学習が行き渡らず、卒後の能力への影響が危惧される面がある。昨年に引き続き卒後教育など今後とも継続的なフォローが必要になると考えている。

以上

2021 年度国家試験報告と今後の対策

2022 年 4 月 14 日
 国家試験対策特設委員会

1. 概要

2021 年度対策も COVID-19 による影響を強く受けた。新学期が始まって間もなく第 4 波を迎え 3 回目の緊急事態宣言発令となった。昨年よりは感染対策経験も積み能動的な対策プログラムが実施できた。一方、各所にかかりの制限を受けながらの対策となった。

結果は、OT 学科では全国平均を十分に上回る成果が得られたものの PT 学科において新卒全国平均を上回ることはできなかった。

2. 2021(令和 3)年度 第 57 回国家試験の結果

	第 57 回 (R3)	第 56 回 (R2)	第 55 回 (R1)
夜間部 PT	18 名受験 15 名合格 83.3%	26 名受験 23 名合格 88.5%	36 名受験 31 名合格 86.1%
昼間部 PT	54 名受験 47 名合格 87.0%	68 名受験 62 名合格 91.2%	59 名受験 57 名合格 96.6%
既卒 PT	21 名受験 5 名合格 (夜 2/ 9 名 22.2%) (昼 3/12 名 25.0%) 23.8%	19 名受験 4 名合格 (夜 2/11 名 18.2%) (昼 2/ 8 名 25.0%) 21.1%	27 名受験 13 名合格 (夜 4/8 名 50.0%) (昼 9/19 名 47.7%) 48.1%
PT 全国平均	79.6% (新卒 88.1) (既卒 37.5)	79.0% (新卒 86.4) (既卒 23.9)	86.4% (新卒 93.2) (既卒 38.4)
O T	21 名受験 19 名合格 90.5%	20 名受験 15 名合格 75.0%	14 名受験 13 名合格 92.9%
既卒 OT	9 名受験 4 名合格 44.4%	5 名受験 1 名合格 20.0%	12 名受験 9 名合格 75.0%
OT 全国平均	80.5% (新卒 88.7) (既卒 34.5)	81.3% (新卒 88.8) (既卒 25.2)	71.3% (新卒 80.0) (既卒 34.6)

3. 特設委員会の構成

委員長 帯刀隆之（副学院長）

委員 中村伴子（副学院長）

和島英明（キャリア支援室長）既卒生担当責任者

小島 肇（理学療法学科長）理学療法学科統括責任者

河野達哉（作業療法学科長）作業療法学科責任者

小林規彦（理学療法学科長補佐）昼間部理学療法学科担当責任者

中山雅和（理学療法学科長補佐）夜間部理学療法学科担当責任者

クラス担当

福田 崇 夜間部理学療法学科最終学年担任

山形哲行・沼尾 拓 昼間部理学療法学科最終学年担任

福井健太郎 作業療法学科最終学年担任

中山雅和・長屋 説・山形哲行・照井林陽 理学・作業療法学科既卒生担当

4. 社医学版国試対策プログラム

- ① 担任を中心とした学生面談・相談（対面と web 指導のハイブリッド活用）
- ② 学生個別の指導教員の配置
- ③ 模試による反復学習（学内模試、業者有償模試、公開模試）
- ④ 勉強会の開催（グループワーク、分野別等）
- ⑤ 自己学習用「スマホ利用問題ドリルと模試（リハドリル）」業者セット
（費用は学生個人負担）
- ⑥ 有償アプリ利用による国試過去問の配布教材

【今季の重点対策のあらまし】

夜 PT : 1) ④勉強会を担当主導による演習授業形式を年末から毎日実施する

2) ⑤有償業者セットを学生一斉自己負担にて初めて導入する

昼 PT : 1) ④勉強会では特にグループワークの活用を図る

2) ⑤有償業者セットを前年に引き続き実施させる

3) 学習要支援学生を対象に臨床実習期間内であっても並行した国試学習の促し

OT : 1) ⑤⑥を前年3月から前期にかけて前倒しして実施する

（前期臨床実習期間内であっても並行して実施する）

2) ④臨床実習後の11月から毎日勉強会を開催する

3) 全国業者模試を含め模試を計10回実施する

共通 : 1) 正月返上、年末年始学習会の開催

5. 第57回国家試験について

【理学療法士国家試験】 例年とほぼ同様の出題で難易度に特異な変化は見られなかった。各種評価法を選択する問題やMMT・ROMの測定肢位など基本的な問題が多かった。

【作業療法士国家試験】 概ね例年同様の難易度であった。一部新規問題ではこれまで問われていた事項に留まらない範囲や周辺知識を問われる問題が十問前後あった。引き続き過去問の理解を深めるような勉強が求められる出題に特徴があった。

【共通問題】 過去問と類似した標準的な主題が多い問題であった。過去数年分を繰り返し勉強している受験生には一定の得点となる問題と思われた。

6. 対策のまとめ

最終学年担任など直接の担当者の対策目標や取り組みを確実に実現していくために学科等各部署の組織的なリーダーシップは重要である。担当者の意向を尊重しながらも国試対策として培っている学院の経験も引き継がれていく必要がある。ここ数年の国試対策では、最終学年対策だけでは追いつけない面を指摘してきた。1 学年次からの対策についても重要である。この点からも学科における積極的なマネジメントが望まれる。

2021 年度から国試対策に係る諸課題に対処していくために課題を整理し各作業部会を設置した。部会長には各部署責任者を任命し役割意識を明確にした上で最終学年に留まらない様々な対策アイデアの提案を検討している。

今年度具体化された事項として、「基礎力向上対策部会」による基礎医学 3 科目（解剖・生理・運動学）テストの全校実施計画が挙げられる。最終学年対策とは別に 1 学年～3 学年を対象に前後期の 2 回を実施する予定である。学生への意識づけを図ることともに学年特性や学年推移のデータを蓄積することを当面の目標に掲げている。2 つ目に「自己・自主学習促進対策部会」による放課後学習時間の呼びかけ設定である。週 1 回特定曜日を定め放課後の学習時間と学習スペースの設定を行った。しかし、参加メンバーは特定の数名に限られる結果となった。とくに要学習支援者など学生の参加動機をある程度強く求められるような方略の必要性が感じられた。

次年度の定例委員会を通じて、その他諸課題への対処も含めた方策について今一度継続的に検討していきたい。

以上

2021年度応募者対応委員会活動報告

応募者対応委員長 山田千鶴子

2021年度の応募者対応委員会の活動について以下に報告いたします。

1. 委員会主催イベント実施について

昨年度実施した主な応募者対応イベントは以下のとおりである。

1) 学校説明会

15回実施 参加者数264名

*2020年度11回実施（4月-翌年2月）参加者数312名

2) 受験支援セミナー

13回実施 参加者数134名

*2020年度9回実施（6月-翌年1月）参加者数168名

3) 夜間部授業見学 4回実施

4) 体験授業 PTOT 学科合同2回 PT 学科3回

5) OT イベント OT お仕事ミニ講座8回実施 OT 種明かし7回実施 転職のススメ4回実施

6) 保護者説明会 9回実施

※別紙ご参照

2. 全体の参加者の変化について

全てのイベントの参加者数は625人、前年度は697人であった。

参加者の内訳で見ると、高校3年生259人（前年度319人）、大学生44人（同65人）、社会人175人（同192人）の減少が総人数の減少に影響したものと考えられる。一方、保護者説明会出席の参加者は50名ほど増加した。

月別で見ると、6月および9月の減少が目立ち、高校3年生の減少に大きく影響したものと推測する。4月に発令した緊急事態措置が6月下旬まで延長し、その後もまん延防止等重点措置が取られていた時期であり、Covid-19の感染の拡大が直接影響したことが原因と考えられる。

緊急事態宣言中はイベントを中止し、まん延防止等重点措置時はイベントの参加人数を制限したり、学生の参加を見合わせたり、と学内の感染防止と両立させることで、イベントの内容的にも表面的なものに留まらざるを得なかったことが悔やまれる。

3. 今年度実施した企画について

昨年度も実施したが、今年度から本格的に導入した保護者対象説明会は、参加者の満足度が高く、今後も実施の継続が望まれる。

また、OT学科で、11月から実施している、「転職のススメ」という企画は、開催時間を遅くしたことで、社会人が参加しやすくなり、今後はPT学科でも実施を検討してはと考える。

4. 次年度に向けて

学生募集のイベントだけでなく、高校や大学への訪問もはばかれるような期間が長く、アピールが不十分だった。

次年度は少しずつ行動制限も緩和されそうに推測され、渉外担当や広報担当との連携を取りながら、新しい応募者対応委員長の下で、効果的な受験生募集の活動をしていくことを期待したい。

以上